

事例番号:290114

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 5 日

2:05 陣痛開始、骨盤位、破水のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 5 日

2:57 骨盤位、前期破水の診断で帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 5 日

(2) 出生時体重:2564g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.38、PCO₂ 42mmHg、PO₂ 28mmHg、

HCO₃⁻ 24mmol/L、BE -1mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 10 日 退院

生後 4 ヶ月 発達の遅れあり

生後 8 ヶ月 混合性脳性麻痺疑い、精神運動発達遅滞あり

1 歳 痙性両麻痺

(7) 頭部画像所見:

生後 9 ヶ月 頭部 MRI で先天性の脳障害や PVL を示唆する所見を認めない

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理および分娩方針(骨盤位のため帝王切開の方針としたこと、書面で同意を得たことなど)は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 38 週 5 日に骨盤位・前期破水の診断で帝王切開を行ったこと、入院から 52 分で児を娩出したことは適確である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。